

特集

教育支援

コーディネーター・フォーラム

2010 レポート



平成22年1月30日(土)午前、東京都教職員研修センター 111研修室にて、主催：東京都教育委員会、企画：地域教育推進ネットワーク東京都協議会の「教育支援コーディネーター・フォーラム2010」が開催されました。

このフォーラムは、教育支援プログラムを開発・提供している企業・NPO等団体と、地域と学校の橋渡しをしている地域(学校支援)コーディネーターたちが一堂に会し、情報交換を行いながら、子供たちのより豊かな学びのためのプログラムについて考えあう機会として、平成19年度から実施しています。3回目を迎える今年は、地域(学校支援)コーディネーターをはじめ「学校支援ボランティア推進協議会事業」担当職員、また企業のCSR担当者やNPO団体の担当者など約180名の方が参加しました。

1時間半という限られた時間でしたが、閉会後も会場に残り、名刺交換をしている姿や、熱心に相談をしている姿が見られ、学校・地域でのプログラムの実現に向けて話を進めている参加者も多い様子でした。

今回のフォーラムでの出会いにより、学校と地域、企業・NPOのつながりがより一層強くなり、地域にある多様な社会資源が子供たちの学びの場に活かされることに、期待が膨らみます。

プログラム

進行：香月よう子さん(フリーアナウンサー、きてきて先生プロジェクト代表)

- 事業紹介(主催者挨拶)
- オープニングメッセージ(事例報告)
「よかった!つながった!実現した!」
水木 優香さん(文京区立駒本小学校支援地域本部 地域コーディネーター)
- 参加者紹介
 - ・ コーディネーター参加地区紹介
 - ・ 参加企業・NPO等団体紹介
- 情報交換会
 - ・ 「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」の取組についての説明



オープニング
メッセージ
(事例報告)

「よかった!つながった!実現した!」

開会にあたり、文京区立駒本小学校支援地域本部 地域コーディネーターの水木優香さんから、企業と連携した活動事例の報告がありました。水木さんは2008年の本フォーラムに参加した際に、社団法人日本写真協会の方と出会い、その後、連携して授業のコーディネートを行いました。水木さんのメッセージの一部を紹介します。



初めて参加した2008年のフォーラムでは、企業やNPO団体が配布している資料を一通り集め、その中から、駒本小学校の設備や教育目標、授業内容と時間数の設定、先生方のキャラクターを思い起こしながら、気になる団体を再度訪れ、資料に書かれている授業プランの変更がどこまで可能であるのかということを中心に質問をして回りました。

私が求めていたものは、ただ学校側が時間と場所を提供し企業やNPO団体による「上げ膳据え膳」で授業が行われていくというものではありませんでした。学級担任が描いている学習の到達目標が達成され、児童だけでなく担任をも満足させる授業をコーディネートしていくことが、授業支援を長続きさせる秘訣であると感じておりました。学級担任が傍らから授業を眺めているのではなく、導入部分と授業のまとめの部分には必ず関わるといふスタンスも崩れなくなりました。

また、謝礼や教材費が掛かりそうな授業を展開することは難しい、など様々な条件がある中、真剣に私の話を傾聴してくださった団体のひとつが「社団法人日本写真協会」でした。

本来、日本写真協会でご用意下さっていたプログラムは、ピンホールカメラの仕組みや写真の現像体験が主でしたが、何度も打合せを重ねてこちらの主旨をお伝えし、大幅にプログラムの変更をお願いしました。丁寧に対応して下さいのおかげで、授業はただ「楽しかった」で終わることなく、児童一人一人の胸に将来を考えるきっかけを残して下さいました。子供たちが寄せてくれた日本写真協会の皆様への御礼の手紙からも、充実した時間を過ごせていたことが伺えました。

今年も、ただの職業体験に終わらないキャリア教育を継続しています。今後益々NPO団体や企業の皆様、そして地域の力をお借りして、小学生段階からのキャリア教育を充実させることにより、子供たちが未来に夢を持つことさえ出来れば、現在社会問題となっている引きこもりやニートの減少にもつながると考えております。

社会全体で子供を育てる流れが、この教育支援コーディネーター・フォーラムでより一層加速することを願っています。

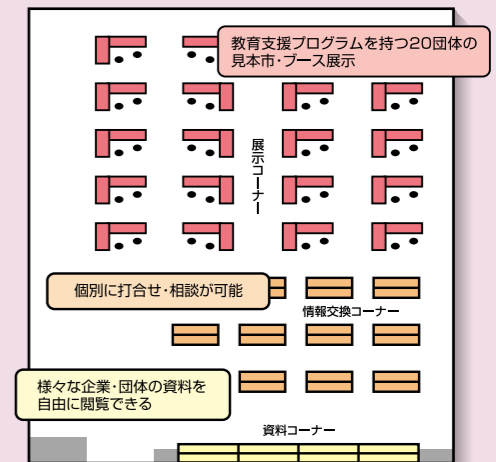
◆参加者の声◆

- ・「普段学校や教育委員会の方たちと接する機会がないため、非常に有意義でした。」(企業)
- ・「企業と学校、互いの目的が絞られていたので、話が進みやすく良かったです。」(企業)
- ・「今年で3回目の参加です。フォーラムにて名刺交換をしたコーディネーターの方に、実際に学校とつないでいただいた実績もあり、大変有意義な機会だと考えています。」(企業)
- ・「子供の幸せのために、大人たちがなさねばならないことを企業も地域も真剣に取り組まねばならないと感じました。」(コーディネーター)
- ・「大変貴重な情報をたくさんいただけたので、学校へ持ち帰りたいです。」(コーディネーター)

コーディネーター・フォーラム会場

■参加企業・団体■

カゴメ株式会社、有限会社汎マイム工房、うさぎママのバトロール教室、社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、本州四国連絡高速道路株式会社、社団法人日本写真協会、特定非営利活動法人全国無洗米協会、株式会社リバナス、社団法人青年海外協力協会、社団法人日本環境教育フォーラム、明治乳業株式会社、フューチャーイノベーションフォーラム、独立行政法人国際協力機構広尾センター(JICA地球ひろば)、株式会社みずほフィナンシャルグループ、東京電力株式会社、関東子ども農山漁村交流プロジェクト推進協議会(農協観光)、特定非営利活動法人ITジュニア育成交流協会、特定非営利活動法人キッズドア、特定非営利活動法人みんなのこぼ、日本アイ・ビー・エム株式会社 など(順不同)



コーディネーター・フォーラム会場の様子

展示コーナー

カゴメ株式会社

「凧々子わくわくワークショップ」の紹介

カゴメ食育支援活動の一環として、加工用トマト「凧々子」の苗を1校あたり96本又は48本を無償でプレゼントする「凧々子わくわくワークショップ」活動について紹介していました。

「凧々子」の栽培過程で、“加工用”ならではの品種特徴を知ることができる、愛情をこめて育てたトマトの収穫や調理を通して、「命の大切さ」と「感謝する心」を育むことができる、などの魅力に多くの参加者がブースに集まりました。



特定非営利活動法人キッズドア

「ガクボラ」による教育支援活動の紹介

学生ボランティアを学校等に派遣する事業を2009年11月から始めたということで、活動の様子をDVDやパネル、ポスター等を使い紹介していました。ブースには実際に活動をしている学生ボランティアも集まり、参加者と積極的に交流をしていました。

対象学年や人数など、学校側のニーズに合わせて、様々な企画を立てることができるため、コーディネーターの方も熱心に担当者の話を聞いていました。



うさぎママのパトロール教室

「安全セミナー」、 「キラキラあんぜんキーホルダーづくり」の紹介

子供たちが反射材を使用して作る「あんぜんキーホルダー」の工作プログラム等について、実物を展示し紹介していました。

キーホルダーの他、自転車プレートなど、デザイン性のある様々な作品の展示に、参加者の関心が集中していました。

【担当者感想】「御来場のみなさまも大変熱心で、反響を間近で感じることができました。それぞれの学校の状況やニーズに応じてプログラムを用意する必要性を感じました。」



情報交換コーナー

コーディネーターと企業・NPOの担当者、またコーディネーター同士が情報交換や相談をしている姿が多く見られました。



資料コーナー

教育支援プログラムを提供している多くの団体のパンフレットや資料等が並べられました。

